

22-11

特54
462

130
1/5

國
憲
要
論

文部省特別認可東京法學校

經濟法律全科卒業

尾本源吉郎著

非賣品



031576-000-9

特54-462

國憲要論

尾本 源吉郎 / 著

M23

BBE-0197



國憲要論目次

第一編 緒論

第一章 憲法本義

第二章 憲法制定法

第三章 憲法改正法

第四章 憲法保護法

第五章 國憲總論

第一節 立法權

第二節 行法權

第二編 國長

第一章 國長ノ本權

第一節 議員招集延會閉會ノ權

第一款 招集權

第二款 閉會權

第三款 延會權

第二節 開散權

第三節 裁可權

第四節 文武官進退權

第五節 赦宥權

第六節 國家代表權

第一款 外國公使引見

第二款 自國公使派遣

第三款 條約締結

第七節 裁判權

第八節 海陸軍統帥權

第二章 國長ノ特權

第一節 無責任

第二節 榮典授與權

第三節 帝室費ヲ得ル權

第三編……立法權……

第四編……行政權……

第五編……司法權……

(續・刻)

4550/23

國憲要論自叙

今ヤ衆議院議員撰學ノ初期ニ方リ諸方囂然甚シ
 サル所ナク方略用井サル所ナシト云而シテ所謂政黨政社ナル
 者各異黨ヲ排シテ其黨類中ヨリ議員ヲ出スヲ欲シ計畫措辦亦
 甚カム各黨相争フヤ殆ント水火ノ如ク然リ然ルニ退テ其所謂
 主義ヲ觀ルニ固ト大同小異ノ間ニ在ルノミ夫主義ノ本領ニシ
 テ相同シカラザレハ其相容レサルヤ固ト宜ナリ從令ヒ主義ハ
 大同小異ナルモ其小異ノ結果ヲ推究尋繹シ所謂毫釐ノ差千里
 ノ謬ヲ致スニ至ラサルモ苟モ其結果ニシテ相容レザレハ其相
 争フモ亦宜ナリ今ヤ則チ然ラス或ハ主義ノ異同結果ノ容否ヲ
 問ハス苟モ異黨ナレハ則チ之ヲ排擠シ誹謗攻撃至ラサル所ナ
 キ者アリ是豈政黨政社ノ本旨ナランヤ是ノ如キ者ハ要スルニ
 名ヲ政黨政社ニ假リテ其實私黨ノ勢ヲ張ルニ非ルヲ得ンヤ予



恒ニ謂フ改進ノ如キ自由自治ノ如キ其主義ニ於ケル敢テ間然
スル所ナシ予皆之ヲ友視シ擇フ所ナシト雖正但予ハ黨論ニ從
テ自説ヲ枉ルヲ欲セサル耳蓋シ社會ノ物タル活動變轉殆ト端
倪ス可カラス而シテ政治ハ之ヲ統轄スル所以ナレハ亦隨テ千
態萬狀一轍ニ出ルヲ得サルハ其通勢ナリ故ニ或ハ以テ個人ノ
自由ヲ要スルアリ或ハ以テ國家ヲ主トスヘキアリ宜ク急治ス
ヘク宜ク漸修スヘク要スルニ眞理ト國情トニ徴シ以テ自主ノ
所見ヲ立ツヘキナリ豈黨論ノ奴隸タルヘケンヤ余撰被撰ノ資
格ヲ有スルヲ以テ人動スレハ政黨ヲ以テ言ヲ爲ス乃チ感スル
所アリテ國憲要論ヲ作り以テ同志ニ頒ツト云
明治二十三年六月下澣撰于嵐峽之下別墅

尾本源吉郎誌

國憲要論

憲法ハ建國ノ基礎ニシテ萬法ノ源ナレハ其範圍甚廣シ故ニ其原理ヲ窮ムルニハ經濟學哲學
政治學社會學等ニ涉獵スルニ非レハ得テ其蘊奧ヲ盡ス可カラス而シテ又一國ノ土風民俗、
慣例沿革、及ヒ政体等ヲ參酌シ以テ其材料ト爲サ、ル可カラス然ルニ一々之ヲ論究セント
欲スレハ事浩穢ニ涉リ日亦足ラサルヲ以テ本篇ハ特ニ其大要ヲ約論スルノミ

第一編 緒論

第一章 憲法本義

憲法ハ政權ノ構成權限及ヒ公權ノ原則ヲ定ムル者ヲ云是ニ據レハ憲法ニ定ムヘキノ要目如左

- (1) 人民平等權
- (2) 身體自由權
例セハ法ノ令スル所ニ非レハ逮捕セラレズ及ヒ正當裁判ヲ受ルノ權及ヒ轉籍自由ノ
如キ苟モ他人ノ權利ヲ侵害スルニ非レハ取舎行止毫モ檢制ヲ受ケサルヲ云
- (3) 逃懷自由(出版演説教育等ノ自由)
- (4) 信教自由(教會開設宗教ニ於ル經營ノ自由)
- (5) 結社自由(結社ニ兩種アリ民事結社商事ヲ包マ政事結社はナリ)
- (6) 財產自由(職業自由、法律ニ依リ若クハ正當ノ償金ヲ得ルニ非レハ所有權収奪ノ患ナ
ク家宅不可侵ノ類)

- (7) 政体
- (8) 君主即チ主治者
- (9) 國家ノ大權

第二章

憲法制定法

憲法ノ制定ハ國各其法ヲ異ニスルモ概テ左ノ四種ニ出テス

- (1) 慣例ニ沿フ
- (2) 民撰建國會ノ議決ヲ取り主治者之ヲ裁可ス
- (3) 主治者國民總代ト結約ス
- (4) 主治者ノ自定

(1) 慣例ニ沿フノ法ヲ取ル者ハ憲法ノ得失一ニ其國慣例ノ何如ヲ顧ルヘキ耳故ニ其慣例ニシテ不可ナル者アレハ法律ヲ以テ之ヲ補正スルヲ要トス

(2) 民撰建國會ニ諮リ主治者之ヲ裁可スルノ法ハ是歐土ノ概テ準用スル所ナリ此方法ハ憲法未嘗設ノ邦國ニ用ヰテ其効顯著ナリ蓋シ此法タル治者被治者協同一致スルヲ以テ官ニ偏セズ民ニ黨セス其中正ニ屬スルヲ以テ民人亦自悦服ス

(3) 主治者國民總代ト條約スルノ方法はテ國約憲法ト爲ス此法ハ往昔羅馬ノ貴族平民ト其權利ヲ争フニ方リ又中世日耳曼ニ在テ君主豪族間并ニ君主ト獨立都府間毎ニ此法ニ依リ公法ヲ制定シタルモ不可ナリ何トナレハ條約ハ獨立者間ニ行ハルヘキ者ニシテ一團結間ニ行フ

ヘキニ非スシテ法律ハ一團結間ニ制定スヘキモノナレハナリ今ヤ文明ノ邦國ニ在テハ復テ封建制度ヲ用ウルモノナク隨テ邦内獨立團結アルナシ然ルニ此法ヲ用ウルハ國民間ト雖モ互ニ獨立者ノ如ク爲ニ國民タルノ本分ヲ忘レ其極ヤ統一ヲ害スルヲ免レサルナリ

(4) 主治者ノ自定是ヲ欽定憲法ト爲ス此法タル或ハ國民ヲ悦服セシムルヲ得スト雖モ亦取ルヘキナキニ非ス民度幼稚ノ邦國ニ在テハ反テ長績ヲ見ルモノアリ蓋シ幼稚社會ニ在テハ建國會ヲ設ルモ被撰員其人ニ非レハ主治者自ヲ適任者ヲ撰定シ以テ大憲ヲ制定スルニ若カサレハナリ且ツ主治者ノ自定ニ屬スト雖モ其改廢一ニ主治者ノ度内ニ在リト爲スコカラス其改廢ニ於ケル亦宜ク創定ニ於ケル如キノ法ニ從ハサル可カラサルナリ

第三章

憲法改正法

輓近歐洲諸邦ノ憲法改正ニ於ケル他ノ法律ノ改正ニ於ケルヨリ其法式ヲ嚴ニスルヲ以テ原則ト爲セリ其議員過半若クハ三分ノ二以上ノ同意ヲ要スト爲シタルカ如キ是其一斑ナリ

合衆國ハ元老院及國會各三分一以上ノ是認ヲ要ス白耳義和蘭ノ如キハ元老院及上下兩院各多數決ヲ經テ其決議ヲ公示シ乃チ諸院ヲ解散セシメ更ニ之ヲ招集シ新議員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非レハ不可ト爲セリ

普ハ別ニ其方式ヲ嚴ニセスト雖モ二回ノ決議ヲ要ストセリ

佛ハ兩院相合シテ建國會ヲ設ケ其多數ノ同意ニ從フ

自餘各邦皆大同小異ニ過キス獨リ英ハ他ノ法律ノ改正ニ於ケルト毫モ異ナル所ナシ然ル

所以ハ英ノ風俗、習慣ヲ重シ且ツ憲法ノ基礎既ニ確乎不援ニ属シ政黨亦善美ヲ尽スヲ以テ爲ニ嚴式ヲ設ケサルモ妄ニ憲法ヲ破壞スルノ虞ナケレハナリ

第四章 憲法保護法

憲法ヲ保護スル方法ニアリ直接保護間接保護是也直接保護トハ法制ヲ以テ憲法ヲ犯スナカラシムルモノニシテ夫ノ官吏責任ヲ明ニシ公權ニ與カル者ヲシテ憲法遵守ヲ誓ハシメ又其犯者ハ特ニ高等法院ヲ設ケ之ヲ處斷シ元老院ヲ以テ其法院ヲシムルカ如キ是ナリ猶本論ニ於テ詳説スル所アラン間接保護トハ政治上ノ良習ヲ起シ地方自治ノ制ヲ設ルニ在リ政治上ノ良習トハ主治者被治者ヲシテ憲法ヲ崇重シ人民ヲシテ撰擧ヲ慎マシムルノ風ヲ養成スルカ如キ是ナリ其養成法ハ教育ヲ盛ニシ大ニ參政權ヲ與ヘ以テ自由ノ氣象ヲ發揚セシムルニ在リ此良習既ニ生セハ政府權策ヲ施シ以テ憲法ヲ犯サントスルモ人民能ク其防衛ニ堪ヘ人民暴威ヲ張り以テ之ヲ犯サントスルモ復々之ニ與ニスル者ナキニ至ル是實ニ政治思想ニ敏達ナル人民ノ能クスル所ニシテ保護ノ最良法ナリ今夫刑法民法ヲ犯ス者ノ如キハ法司之ヲ制スルヲ得ルト雖モ憲法ニ至テハ法司ノ能ク及フ所ニ非ス唯政治ノ良習ヲ養成スルニ在ルノミ地方自治トハ地方ノ團體タル州郡町村ヲシテ中央政府ノ法律ニ從ヒ其團體ヨリ撰擧シタル者ヲシテ其團體ヲ治メシムルニ在リ是ノ如クスレハ地方ノ權力隨テ強大ニシテ暴戾ナル憲法ニ服セス以テ中央政府ノ擅斷ヲ阻遏スルニ至ル亦以テ保護ノ一端ト爲スヘキナリ而シテ地方自治制ノ得失ハ英佛ヲ對照セハ知ルヘキ耳佛ノ革命相踵クハ職トシテ地方自治

制ヲ取ラスシテ中央集權制ヲ取ルニ由ル中央集權ハ其制專ラ權ヲ中央政府ニ收ムルヲ以テ苟モ之ヲ顛覆セハ則チ憲法ノ改正立ニ成ルモ今英國ノ如キハ然ルヲ得ス縱令能ク中央政府ヲ獲スモ憲法ヲ奈何レスルヲ得ス若シ必ス其更正ヲ要セハ全國ヲ獲サ、ル可カラサルナリ

第五章 國憲總論

歐米學者ノ法律ニ於ケル憲法刑法等ノ如キ其主義ヲ定ムルノ說頗ル紛紜人ヲ適從スル所ヲ知ラカラシム其憲法ニ於ケル專治民約牽制機關ノ四主義アルモ余ハ其切要ヲ感セカレハ姑ク省略ニ從フ余ハ恒ニ謂フ凡ソ法ハ社會維持ノ必要ヨリ生セサルモノナシ隨テ其主義モ亦其必要ヲ達スルニ在ルモノト爲スヲ以テ足レリト是其省略ニ從フ所以ナリ凡ソ社會ハ權ナカル可カラズ權微リセハ則チ社會得テ統治スルヲ得ス土崩瓦解立テ待ツヘキノミ是獨人類ニ在テ然ルノミナラス地球ノ旋轉草木ノ榮枯凡天地間ノ森羅萬象皆權ニ依テ統轄セラレサルナシ況ヤ社會ヲヤ權ノ最モ主要ナル者稱シテ建定權ト爲ス即チ社會ヲ創建統治スル所ノ大權ニシテ諸權ノ基礎ト爲ス我憲法ノ所謂統治權ニシテ政學者ノ主權ト爲ス所ノ者是ナリ凡ソ社會ヲ成セル者ハ其政體ノ何如ヲ問ハス此權ニ依リ成立セサルハナシ但其所在同カラス或ハ國民ニ屬シ或ハ國君ニ屬ス國君ニ屬スル者稱シテ君主政ト爲シ國民ニ屬スル者稱シテ民主政ト爲ス民主政ノ變體即チ國民ノ一部、主權ヲ執ル者稱ソ寡人政ト爲ス是ノ如ク主權ノ所在各異ナリト雖モ社會ヲ爲シタル者ニシテ未タ之ナキ者アラス主權ヨリ支分スル權之ヲ被建定權ト爲ス立法行法ノ兩權是ナリ孟氏ハ以テ立法行政司法ノ三權

鼎立スト爲スモ今ヤ諸説一定シテ二權分立ト爲セリ蓋孟氏ノ説ハ行政司法ノ二權ヲ別視スト雖モ非ナリ何者司法行政皆行法權ノ一部ニシテ唯其施行スル所ノ法律ヲ異ニスルニ過キス其行政法ヲ行フモハ之ヲ行政ト爲シ司法ニ屬スル法ヲ行フモハ則チ司法ト爲スノミ故ニ建定權ヨリ分派シタル被建定權ノ主要ナル者ハ立法行法ノ兩權是ノミ

專制國ニ在テハ此兩權皆一人ニ屬スト雖モ之ヲ事理ニ照セハ截然之ヲ分立セシメサル可カラズ夫自ラ法ヲ立テ自ラ之ヲ行ヘハ其之ヲ行フニ當リ意ノ如クナラサレハ其意ヲ達スル爲メ更ニ又法ヲ制シ以テ自ラ資シ其弊ヤ至ラサル所ナシ且凡ソ法ヲ制スルヤ衆議ヲ要シ之ヲ行フヤ之ヲ一人ニ任スヘシ何トナレハ法ハ萬衆ノ用ニ應スル者ナレハ隨テ輿論公議即チ萬衆ノ意見ニ從テ之ヲ制定セサル可ラス是其衆議ヲ要スル所以ナリ而シテ法ヲ行フヤ之ヲ行フ人ニ責任ヲ負ハシメサル可ラス故ニ其施行ヲ數人ニ分委スレハ其責任ノ歸スル所明ナラス互ニ相辭避シテ責任ヲ免ル、ノ弊ヲ生ス苟モ然ラハ政務得テ學カラス官職曠廢ノ弊實ニ言フ可カラサル者アリ由是觀之兩權ノ分立スヘキハ政體ノ專制ト共和トヲ問ハサル也我憲法ニハ天皇高ク立法行法兩權ノ上ニ立チ建定權ヲ握リ玉ヒ而シテ其立法權ハ議會ノ協贊微リセハ行フヲ得ス其行法權ハ輔弼(國務大臣、樞密顧問)ノ翼贊ニ依テ之ヲ行ヒ又國務大臣ニ命シテ行ハシメ玉フ而シテ國務大臣ハ獨當職ノ行法ニ對シ其責ニ任スルノミナラス事物ニヨリ連帶ノ責ニ任スヘケレハ亦兩權分立ノ旨ニ適ヒ官務曠廢ノ弊得テ生スルナキカ

第一節

立法權

所謂立法權ハ政權分立ノ邦國ニ在テハ必ス之ヲ議院ニ屬ス議院ノ制一局兩局ノ別アリ其得失ノ如キハ未タ遽カニ定ム可カラス但方今各邦ノ現狀ニ徴スレハ兩局制度ヲ用フル者多シ我憲法亦其制ニ從ヘリ今左ニ一局兩局ノ得失ヲ舉ク

一局制ノ要旨即チ兩局ノ失

(1) 立法ノ遲延ヲ致ス

凡ソ法律ハ必ス兩院ノ議決ヲ經サル可ラサルヲ以テ爲ニ遲延ヲ致シ往々時機ヲ失スルノ患アルヲ免レズ

(2) 其用ナキヲ見ル

兩局ヲ置カハ各意見ヲ異ニスルカ將々其意見ヲ同スルノ外ニ出テス若シ其意見ヲ同フストセンカ兩局ノ必要ヲ見ス若シ意見ヲ異ニストセンカ益々立法遲緩ノ患ヲ致ス

(3) 行法長ヲシテ立法權ヲ侵サシムルノ嫌アリ

兩局ヲ置クトセハ其一局ハ人民ニ選舉セシムルモ他ノ一局ハ何如仍ホ人民ヲシテ選舉セシムヘキヤ若シ人民ヲシテ選舉セシムトセハ亦無用ナルヲ見ル何トナレハ均ク人民ノ撰舉スル所ナレハ勢其説ノ同シカラサルヲ得カレハ也然ラハ行法長ヲ選舉セシメンカ是行法權ヲ以テ立法權ヲ侵スニ非スヤ何トナレハ行法長ノ選舉スル所ナレハ勢其同主義ナラサル可ラサレバナリ若夫某一部ノ人ヲシテ選舉セシメン乎其理致ナキヲ奈何セン

二局制ノ要旨即チ一局ノ失

(1) 執拗ノ常性ヲ矯正スルヲ得

凡人類ハ執拗ノ性アルハ其常ナリ故ニ一局トセハ一旦提起セル諸案ハ縱令ヒ其非ヲ悟ルモ之ヲ悛ムルニ吝ナルノ患ヲ免レス而局制ハ得テ其弊ヲ矯正スヘシ

(2) 憲法ヲシテ有力ナラシム

若シ一局トセハ縱令ヒ憲法ニ背キ法律ヲ制定スルモ行法官ハ之ヲ執行セサル可ラサル者アリ然ルニ二局制ハ之ヲ矯正シ以テ公平ノ法ヲ制スルヲ得ヘキナリ

(3) 人民ノ公論ヲ觀ルニ便アリ

先ツ一局ノ議決ヲ公布シ公論ノ批評ヲ觀然後他局ニ於テ其公論ニ從ヒ決議スルヲ得レハナリ

(4) 二大權相軋轢スルノ弊ヲ減スルヲ得

或ハ云兩院ヲ設クルハ政治思想ニ富ム者ヲ二部ニ分チ一ハ永圖政治思想アル者ヲ取り一ハ時勢政治思想アル者ヲ取り以テ善良ノ法ヲ制定スルニ在リ

故ニ前者ハ學者貴族等ヲ以テ之ヲ組織シ后者ハ學識經驗ナキモ時勢ニ適スル政治思想ヲ抱ク者ヲ以テ之ニ充ツヘシト

夫是ノ如ク一院兩院ノ得失ハ學說ノ決セサル所ナリト雖モ要スルニ其國情ノ何如ヲ顧ルヘキカ如シ蓋シ君主國ニ在テハ特ニ兩院制度ノ要ヲ見ル何トナレハ凡ソ事二人以上之ヲ爲セハ相抵牾スルノ患アリ是時ニ當リ之レカ鎮靖ヲ要ス然ルニ一院ナレハ君主議院ト相抵觸セ

ハ不可ノ大ナル者ナリト雖モ若シ兩院ナレハ君主ト相參スレハ君主ハ或ハ上院ニ依リ或ハ下院ニ依リ或ハ其特權ヲ以テシ其間常ニ圓滑ニ處理スルヲ得佛、普、西曾テ一院制度ニ從ヒタルヤ君主ト議院ト紛爭絶ヘスシテ國家不利ノ大ナルヲ以テ今ヤ大抵兩院制度ニ從フニ至レリ唯小國ハ一院ナル者アルノミ我憲法ニ依レハ 天皇統治權ヲ總攬シ玉フト爲セハ主治權ハ一ニ天皇ニ在リ故ニ其支分タル立法行法ノ兩權ヲ并セテ亦天皇ニ屬ス但其立法權ノ執行ニ在テハ議院ノ協賛ヲ要セラル、ノミ然ルニ議院ノ議決ハ其採否一ニ天皇ノ度内ニ存シ何人モ敢テ答喩スルヲ得サル者トス故ニ兩院制度ニ從フモ一院制度ヲ取ルモ敢テ論者ノ喋々スルカ如キ不祥ヲ見サルヘシ而シテ其兩院制度ニ從ヒタルハ要スルニ廣ク衆議ヲ盡クシ以テ天皇裁可ノ資ト爲スニ在ルノミ

建定權分テ立法行法トナルハ既ニ之ヲ論ス然ラハ此兩權ノ法律ニ及フ効力定テ何如凡法律ハ起案、討論、議決、制可、(即チ裁可)ノ四者ヲ經テ成ル此四者ハ皆立法權ニ屬スルヤ曰未タ必ス然ラス起案權ノ如キハ或ハ以テ專ラ立法權ニ屬セシメ或ハ專ラ行法權ニ屬セシメ若クハ此兩者ニ并屬セシムルヲ得我憲法ハ則チ并屬ノ法ニ從ヘリ蓋シ良制ナリ何トナレハ立法官ト雖モ亦自ラ行法官ニ諮議セサル可カラサル者アルハ必然ナリ而シテ專ラ行法官ニ一任スルヲ得サルヤ明ナレハナリ

起案權ハ則チ然リ討論、議決、ニ至テハ必ス立法權ニ屬セサル可カラス然ラサレハ二權分立ノ旨ニ反スレハナリ但行政權ハ之ニ干渉スルナキニ非ラス參考ノ爲ニ説明スル是ナリ其說

明ハ最モ必要ナリ何トナレハ之ヲ執行スル責任アル大臣ハ行政官ナレハ之ヲ意見ヲ述ヘシメサル可カラス特ニ討論中議案ニ不明瞭ナル者アレハ行政官ヲシテ之ヲ説明セシメサレハ殆ト議決スルニ苦ムチ免レサレハナリ但其説明ハ參者ノ爲ニスルニ止リ敢テ決議權ヲ干スニ非レハ毫モ二權分立タルヲ害セサルナリ議案ノ修正ハ討論々決ノ一ナレハ立法權ニ屬スルヤ疑ナシ然ラハ行政權ヨリ提起セル議案ハ立法權ニ於テ一旦討論ニ從事スレハ復々回收スルヲ得ルカ曰否其未タ決議セサル間ハ何時ト雖モ之ヲ回收スルヲ得ルヲ通習トス裁可ハ議決ヲシテ執行力ヲ生セシムル所以ナリ其權ハ行政長ニ屬ス其權力ノ範圍ハ各邦異ナキヲ得ス或ハ取舍スルヲ得ル者アリ拒否スルヲ得サルモ中止スルヲ得ル者アリ或ハ裁可セサル可カラサル者アリ本權ノ必要ハ后章ニ詳論セシ

第二節

行政法權

行政法權ハ行政司法ノ兩權ヨリ成ルモノトス然ルニ行政法權ハ立法權ト并立シ互ニ相讓ラサル者ナレハ司法行政兩權ノ上更ニ政府權ヲ加ヘサル可カラス政府權ハ行政法權ノ長ニシテ一國ノ公益ヲ統理スル者是ナリ此權ハ必ス憲法ヨリ生スト雖モ行政司法ノ兩權ハ然ラス其大体ハ憲法ニ由ルモ多クハ立法院所定ノ法律ニヨリ生ス故ニ獨リ行政司法ノ兩權ノミトセハ終ニ立法權ト對立スルノ被建定權ト爲スヲ得サルナリ

然ルニ政府權ハ行政司法二權ヲ統轄スル者ナルヲ以テ其組織權限ハ甚々簡單ニ屬ス即チ全國ノ公益ニ關スル者ニ就キ特ニ其大体ヲ統ル者トス例セハ議院ノ開閉外交宣戰講和ノ如キ是ナリ若夫起業權ヲ行政法權ニ屬セシムルモ起案モ亦其所掌ナリ政府權ハ獨リ以テ國長ニ屬スルノミナラス間マ又大臣ニ屬スル者アリ大臣カ立法權ニ對シ責任ヲ負フハ政府權アルカ爲ナリ故ニ大臣ハ政府權アル爲メ立法權ニ對シ責任ヲ負ヒ行政權アルカ爲メ公務ヲ行ヒ令達ヲ發スルヲ得ルナリ

此政府權ハ立君國ニハ必ス國君一人ニ屬ス然ルニ一人ニ屬スルト數人ニ屬スルトヲ以テ立君ト共和トヲ別ツノ標準ト爲スヲ得ス共和國ト雖モ此權ヲ以テ全然一人ニ屬スル者アレハナリ

前既ニ論スル如ク行政權ハ時ニ少ク立法權ニ干涉スルヲ得故ニ立法權モ亦少ク行政法權ニ干涉スルヲ得セシメサル可カラス然ラサレハ兩權并立ノ旨ニ背ケハナリ今立法權ノ行政法權ニ干涉スル者ハ何ソヤ大臣責任是ナリ大臣ノ責ニ任スルハ或ハ政府ニ對シ(委任事務ニ於ケル)或ハ人民ニ對シ(直接ニ人民ノ利害ニ關スル者)或ハ立法權ニ對シテ之ニ任ス蓋行法權ノ起案ハ其起案ニ於ケル之ヲ貫徹セシメサル可カラサルノ責アリ此責任ニ於ケル諸大臣連帶若クハ單純ニ之ヲ負フ單純ニ負フ所ノ者ハ一大臣ノ意見ニ止リタルモノニシテ内閣一致セルノ起案ニ非ル者是ナリ若夫内閣一致ノ意見ニ係ル者ニ在テハ諸大臣連帶其責ニ任セサル可カラス之ヲ立法權ノ行政權ニ干涉スル者ト爲ス何トナレハ立法權其起案ヲ可決セサレハ大臣ハ其職ヲ退カサル可カラサレハナリ要之立法權ト行政法權トハ相對立スト雖モ互ニ相干涉スル者トス然レモ此法則ハ諸レヲ立君國ニ適用ス可カラス何トナレハ若シ此理ヲ貫カ

ソト欲セハ勢國君ト雖モ亦辭職セサル可カラサルニ至レハナリ然レモ立君國ノ君主ハ所謂神聖不可侵ナルヲ以テ統治權ヲ執ルト雖モ猶責任外ニ立ツ者トス行政權ハ政府權ト混同スヘカラス行政權ハ一國ノ公務ヲ行ヒ政府權ハ之ヲ統轄命令ス但兩權或ハ同一人ニ屬スル者ナキニ非ス夫ノ大臣ノ如キ是ナリ或ハ此兩權ヲ混同スル者アルモ非ナリ之ヲ別ツノ効ハ特ニ中央集權地方分權ノ利害ヲ論スルニ於テ之ヲ見ル即チ政府權ハ中央政府ヲ去ル可カラスト雖モ行政權ハ政府權ノ命令ニヨリ活動スルモノナレハ之ヲ地方ニ散布セシムルモ敢テ不可ナケレハナリ故ニ政府權ハ憲法ニ非レハ動カス可カラス立法權ト雖モ容喙ス可カラサルモ行政權ハ政府權ノ下ニ屬シ往々立法權ノ爲ニ左右セラル、ヲ免レヌ

司法權ハ裁判權是ナリ即チ人民ノ關係ヲ定ムル法規ニ依リ裁判スルヲ云又行政法ニ依リ裁判スル者アリ所謂行政裁判是ナリ行政裁判ハ司法權ニ屬セス依然行政權ニ屬ス

故ニ三權并立ト爲スモ其實政テ効チ異ニセス何トナレハ兩權分立トスルモ行政司法ハ行法權内ニ在テ截然相混ス可カラスト爲セハナリ故ニ本編ハ仍ホ三權并立ノ旨ニ據リ論スル所アラントス

以上憲法ノ本義及諸大權ノ範域ヲ論シマレハ憲法ノ性質効用等ノ如キ庶幾クハ得テ見ルヘキカ而シテ憲法ニハ首トシテ二大原則ノ定メサル可カラサル者アリ曰ク法律ハ立法院ノ決議ヲ經サレハ設クルヲ得ス租稅ハ人民ノ承諾ヲ得サレハ徵スルヲ得サル是ナリ然ル所以ハ何ソヤ法律ナリ租稅ナリ皆人民ノ利害ニ關スルノ最大ナル者ニシテ人民ノ疾苦和樂ハ一ニ其宜キヲ得ルト否ニ存スレハナリ我憲法亦之ニ從ヘリ第五條及六十二條是ナリ其他憲法ニ定ムヘキ要目ハ既ニ本編第一章ニ掲ケタレハ此ニ復々論セス以下本題ニ入ル其序如左

(1) 國長……………(2) 立法權……………(3) 行政權……………(4) 司法權

第二編 國 長

之ヲ事理ニ徵セハ國家ハ集合体ナレハ隨テ其首長ナカル可ラス然ラサレハ爲ニ分裂解体スルニ至レハナリ會社町村組合ノ如キ猶首長ヲ要ス況ヤ國家ヲヤ既ニ首長ヲ要セハ隨テ其職務ヲ盡サシムルニ要スル權力ヲ與ヘサル可ラス然ラサレハ從令ヒ首長ヲ置クモ其効ナカラソ是ニ於テ首長ニ與フル權力ノ度ハ如何ノ問題ヲ生ス又國長ハ常人ニ異ニシテ特位地ヲ有スレハ隨テ又特權ヲ與ヘサル可ラス是ニ於テ乎首長ニハ何等ノ特權ヲ與フヘキヤノ問題ヲ生ス此二題ハ國長ニ關シ直ニ起ル所ナレハ以下分テ之ヲ説カン

第一章 國長ノ本權

國長ハ國ノ元首ナレハ國家ノ大事ハ皆之ヲ統轄セシメサル可ラス但其細故ニ涉ラサラシムルヲ要スルノミ細故ハ以テ當該官衙又ハ議會ニ專任シ或ハ國長ヲシテ獨其認可權ヲ有セシムルヲ可トス若夫國長ヲシテ其衝ニ當ラシメンカ縱令ヒ賢明ナリト雖モ豈ニ能ク一人萬機ヲ綜理スルニ堪ヘン且ツ國長ニシテ親ラ之ニ關センカ國ニ賢才ノ政務ニ任スヘキモノアルモ政務ニ與カルヲ得サルヨリ爲ニ政治思想ノ發達ヲ妨クルヤ少ナカラス是豈國家ノ福ナ

ヲンヤ國民政治思想ノ發達セサルニ方リ暗君ノ其間ニ出ルアレハ國ノ擾亂果シテ如何ソヤ由是觀之憲法ハ縱ヒ賢君明主ノ時ニ制定スルモ之ヲシテ細故ニ關セシム可カラズ單ニ主治權ヲ有セシムヘキナリ之ヲ國長ノ本權ト爲ス

主治權トハ何ソヤ國事ノ大体ヲ統轄スルノ權ニシテ以テ國家ヲ代表シ以テ諸權ヲ統轄スル最上權ナリ其目ヲ舉クレハ或ハ外國ニ對シ宣戰、講和、國際條約批准、若クハ外國公使延見ノ如キ内治ニ在テハ立法行政司法ノ三權ヲ活動スル大綱ヲ攬リ又三權ノ處理スル所ヲ認可若クハ排斥スルカ如キ是ナリ夫ノ宰相ノ進退(行政長官)法司ノ黜陟、議院ノ解散招集、決議ノ認可不認可若クハ恩典ヲ行フカ如キ皆主治權ノ内治ニ關スル者ナリ

依是主治權ハ國權中最要ノ者ニシテ此權微リセハ政務得テ舉カラサルナリ而シテ之ヲ國長ニ委スルヨリ他復タ委スヘキ者ナシ是レ之ヲ國長ニ附與シタル所以ノ一ナリ

特ニ國長ハ(共和大統領ハ后ニ説クヘシ)世襲君主ニシテ生ナカラ君主トナルノ權利ヲ有シ人民ヨリ之ヲ觀レハ恰モ神明ノ如ク其尊崇ヲ極ム故ニ其地位安固ニシテ不軌ヲ企ル者アルモ爲ニ其位ヲ動カスニ足ラス又一時ノ風潮ニ激セラレ若クハ己ノ情慾ニ制セラレ、ナカルヘキナリ特ニ其子孫ヲシテ襲祚セシムルノ權及國庫ヨリ大資ヲ奉セシムルノ權ノ如キ大策ヲ有スル者ナリ故ニ國ノ治亂貧富ニヨリ其幸不幸ノ繫ル所最モ甚シ隨テ主治權ヲ君主ニ委スルモ濫用以テ民害ヲ醸スノ虞ナシ是君主ニ委スルニ主治權ヲ以テスル所以ノ二ナリ或曰君主ニシテ賢明ナレハ之ヲ委スルモ可ナリ若シ頑鈍暴戾ナラシメハ或ハ濫用ノ虞ナキ

ヲ保セス其賢否ヲ問ハスニ委スルニ主治權ヲ以テスルハ乃チ不可ナルナカラシヤト曰否若シ暗愚ナラハ反テ好果ヲ得ルモノアリ何トナレハ君主ニハ補弼官アリ顧問官アリ皇族等アリテ之ヲ翼贊匡濟シ敢テ濫用セシムルナケレハナリ縱ヒ暴戾ヲ逞スルヲ得ルトスルモ主治權ハ三權ヲ統轄スル所以ニシテ其弊ノ及フ所人民ニ直接スルモノニ非ルヲ以テ爲ニ人民ヲシテ塗炭ニ陷ラシムルナキヲ見ル是君主ニ委スルニ主治權ヲ以テスル所以ノ三ナリ之ヲ君主ニ委セハ立法司法行政各獨橫斷スルヲ得ス之ヲ爲セハ議院ノ解散宰相ノ廢黜或ハ赦典ヲ行ヒ又三權ノ抵觸ノ如キ君主之ヲ裁判シ各ヲシテ平衡ヲ保タシメ以テ國安ヲ計ルヲ得是君主ニ委スルニ主治權ヲ以テスル所以ノ四ナリ

是故ニ輓近諸邦憲法君主ニ委スルニ此權ヲ以テセサルハナシ唯間マ明文ナキ者アルノミ特ニ憲法運用ヲ得ルヲ見レハ主治權ノ効見ルヘキナリ唯惜ム主治權動スレハ他權ト混淆シ甄覈ナラサルヲ故ニ憲法ニ行政權君主ニ屬スト爲ス者往々之アリ特ニ葡國ハ君主ハ行政權ヲ有スルノ明文アリ如是主治行政ノ兩權ニシテ相混スレハ大弊アリ何トナレハ君主ニシテ行政權ヲ行ヘハ或ハ其背法ニ出ル等ノ爲メ怨府トナル者アレハ隨テ君主ヲ責任ノ衝ニ當ラシメサル可カラサル者アルニ至ル近世君主政体ハ無責任ヲ以テ原則トナス然ルニ之ヲ責任ノ衝ニ置クハ獨何ソヤ苟モ然ラハ爲ニ寶祚ヲ移スノ患ヲ免レス故ニ云君主ニハ獨主治權ヲ委スヘシト

若夫共和大統領ハ則チ然ラス以テ主權ノ全部ヲ委スヘカラス何トナレハ大統領ハ民撰ニシ

任期アリ隨テ生ナカラ寶祚ニ居ル者ニアラス又寶祚ヲ子孫ニ傳フ可カラス要通常人民ナリ
特ニ其享ル所ノ利益ハ諸ノ君主ニ比セハ迥ニ少ナク支給既ニ少ク尊崇亦君主ト相比ス可
カラス且ツ其撰ハ多數決ニシテ素ト確乎ノ利益至大ノ地位ヲ有スル者ニ非サレハ或ハ名利
ノ爲メ其主義ヲ枉ルナキヲ保セス故ニ立憲國ノ君主ノ如ク主權ノ全部ヲ委スヘカラス佛國
ノ如キ主權ヲ以テ國會ト大統領ニ分屬セシムルハ實ニ己ムヲ得サルニ出ルナリ猶主權所屬
ノ諸權ヲ説クニ當リ詳説スル所アラフ國長ノ本權分テ諸權トナル即チ如左

第一節 議員招集、延會、閉會ノ權

第一款 招集權

議會ハ終年開院スルヲ要セス故ニ定期會ト臨時會トヲ問ハス皆議員ヲ招集セサル可カラス
其招集權ハ以テ國長ニ委スルモ固ト不可ナシ何トナレハ國長ハ政務ヲ行フニ於テ租稅ヲ徵
收セサル可カラスシテ其徵收ニ於ケルヤ必ス議院ニ命シ會計豫算ヲ作り之ヲ議定セシメサ
ル可カラス苟モ徵收セサレハ政府ハ得テ維持スヘカラス若シ或ハ國長招集セサランカ亦國
害ナレハ之ヲ招集スルニ於ケル自ラ制規ノ存スルアリ

- (1) 年次一回(英)若クハ年中某定期(普)ニ招集セサル可カラス及通常會ニ在テハ議院自
招集スル(佛、白)カ如キ是ナリ
- (2) 議院ハ不時ニ多數ノ同意ヲ以テ開會ヲ要求スルヲ得大統領ハ招集ノ義務アリ但通常
會

- (3) 特例ニ於ケル制限即チ議院解散ノ際ニレナリ其新招集期ハ各邦異アリ 佛三月廿九日
白二月等ノ如シ
又國長ノ死去又ハ任滿レハ必ス招集スヘキノ制限亦然リ

普ハ最近ノ皇族之ヲ招集ス其皇族未丁年ナレハ參議院之ヲ爲ス白ハ少モ十日後招集
ヲ待タスシテ議員自ラ參會セサル可カラス英國亦然リ佛ハ大統領任滿レハ其前一月
招集ス若シ招集セサレハ任滿ルノ十五日前自集セサル可カラス大統領ノ死又ハ辭職
ノ際ハ直ニ自ラ集會セサル可カラス以下ハ招集スルニ至ルマテ別ニ提起スヘシ
如是招集ノ權ハ國長ニ屬スト雖モ通常會ト特別ノ際ニ於ケル制限ノ存スルアリ但臨
時會ハ制限ナク事アル毎ニ國長之ヲ招集ス

- (4) 兩院制度ノ國ニ於テハ上院ヲ招集セハ必ス下院ヲ招集セサル可カラス
是兩院制ノ國ニ通行スル所ナリ此制限ヲ設ル所以ヲ原スルニ先ツ兩院ヲ設クル所以
ヲ究メサル可カラス上院ニハ國民永圖ノ政治思想ヲ代表セシメ下院ニハ時勢政治思
想ヲ代表セシメント欲スルニ在リ兩者相待チ斯ニ良法ヲ制定スルヲ得故ニ兩院ハ憲
法上常ニ同一體ト爲サル可カラス若シ其一ヲ招集シ他ノ一ヲ招集セサル如キアレ
ハ兩院ヲ設置スル所以ニ非ルナリ且夫異時招集スルヲ得ルトセハ獨其設置ノ旨ニ反
スルノミナラス他ノ弊害アルヲ奈何セン若シ獨リ下院ヲ開キ上院ヲ開カサレハ其間
上院議員中或ハ他行シ下院ノ論決ヲ知ラサルアリ隨テ上院否認ノ權ヲ實行スルヲ得
サル者アリ且先ツ下院ヲ開ケハ人民ハ既ニ其論議ヲ知ルヲ以テ上院ハ民望ヲ慮リ非

認スヘキモノモ敢テ之ヲ爲サ、ルノ弊アルモ亦知ル可カラス是同時ニ招集セサル可
カラサル所以ナリ

猶招集權ニ注意スヘキ者ハ憲法ニ依レハ憲法自ラ招集スヘキ時期アリ此際ヲ除クノ外國長
常ニ招集スヘキ者トス若シ國長ノ招集ヲ俟タス兩院自ラ會スルハ其議決ハ一切無効ニ屬
ス

第二款 閉會權

本權ノ主權ニ屬スル者ハ主權ハ三權ヲ統轄スル所以ニシテ或ハ三種動止ノ方式ヲ定メ或ハ
其施設スル所ノ公益ニ反スルモ非認スルヲ得ルヲ以テナリ而シテ閉會ハ議院ノ活動ヲ止
ムルヲ以テ亦主權ニ屬ス故ニ閉會權ハ通常臨時トナ問ハス之ヲ國長ニ委セサル可ラス其通
常會ニ在テハ或ハ開會ノ期ヲ制限スルモノアリ佛五十日
白四十日其制限アル者ハ其期尽クルニ非レハ
國長閉會ヲ命スルヲ得ス其制限ナキモノハ隨意ニ伸縮スルヲ得英但臨時會ハ國長之ヲ招集
スルヲ以テ國長亦何時ニテモ之ヲ閉會セシムルヲ得

兩院制ニ在テハ亦同時ニ閉會セサル可カラス若シ一方獨開會セシメハ其議決ハ皆無効ニ屬
ス其旨ハ招集ニ於ケルト異ルナシ

閉會スレハ直ニ議院タル資格ヲ失フモ其組織ノ各員ハ隨テ議員タルノ權利ヲ失フニ非ス故
ニ閉會前ニ提起シタル事物(建議討論諸案ノ如シ)ハ事未決ニ屬スルモ猶其終ヲ告ケタル者
ト同視ス故ニ后會ニ於テ其議ヲ繼續スルアルヲ得ス必スヤ更新ノ次序ヲ履マサル可カラス

然ル所以ハ前案ノ如キ或ハ既ニ時勢ニ后レ且ツ重要ノ發議ニ於ケル死者若クハ不在者ノ際
ニ會スルナキヲ保セサレハナリ

第三款 延會權

本權ノ必要ハ凡立法ハ其時勢ニ關スルヤ大ナリ或ハ即時ニ於テスルヲ要トシ或ハ后期ニ於
テスルヲ可トス今夫レ民心激昂騷擾ノ餘過激ノ法制ヲ設ルヲ望ムル時會ニ在テハ之ヲ鎮服
セシムル爲メ法制ヲ設ケルカ如キ或ハ行政權所發議案ノ未タ成ラサルカ如キハ隨テ之ヲ延
會セサル可カラス又兩院軋轢ノ甚キカ如キニ於ケルモ其時ヲ經テ其意漸ク解スルヲ待ツ
得策ト爲ス是又延會セサル可カラス苟モ延會セサレハ或ハ一時民心ノ爲ニ攪動セラレ或ハ
兩院抗抵ノ甚シキ爲ニ完全ノ法ヲ設クルヲ得サルヲ以テナリ

本權ヲ國長ニ委スル所以ハ國長ノ良法ヲ制シ國ヲ治ムルニ於テヤ獨國家ニ利スルノミナラ
ス亦自ヲ利スルモノナリ特ニ國長ハ國事ノ大綱ヲ攬ルヲ以テ國家ノ大勢ヲ達觀シ以テ其緩
急ノ時機ヲ知ルニ由ル故ニ各邦ノ通習概テ之ヲ國長ニ委セサルハナシ但國長ノ濫用ヲ慮リ
憲法上多少ノ制限アルヲ要ス特ニ代議院ノ不完全ナル者ニ在テハ更ニ其制限ヲ嚴ニセサル
可カラス(英國ノ如キ代議院ノ完全ナル者ハ隨テ濫用ノ弊ナキヲ見ル)其制限ハ如何

白、普ハ國長延會スルヲ得ルモ兩院ノ承諾ヲ得スニ三十日以上ニ及ヲ得ス又一開會中再
延會ヲ行フヲ得ス佛ハ延會權ハ四十日ニ至ル可カラス又一開會中再ヒスルヲ得ストセリ
延會ノ閉會ニ異ナルハ其前會ニ從事シタル所ノ者ハ一切之ヲ繼續スルヲ得ルニ在リ

第二節 解散權

解散權ハ議院以テ改撰セサル可カラスト認ムレハ議員ヲシテ其資格ヲ失ハシメ常人ト爲スニ在リ凡議員ハ民撰ナリト雖モ或ハ其國益ニ反スルヲ主張スルニ至ルモ亦知ル可カラス例セハ其言論輿論ニ反シ或ハ詭激ニ涉リ或ハ政黨ノ私ニ徇ヒ國益ヲ省セス或ハ一時ノ風潮ニ制セラレ一身ノ情慾ニ惑ヒ反省スル所ナキカ如キ是實ニ解散權ヲ用非サル可カラス其他各議員ノ說分裂シテ統一セサルモ法律ノ議案ヲ作ルヲ得ス此際亦解散スルモ可ナリ又議院ト内閣宰相ト相軋シ毎事相反目スルカ如キ其一ヲ退ケサル可カラス而シテ其孰レヲ退クヘキヤヲ定ムルハ主治權ニ屬ス

又撰擧ノ際各政黨權略詐謀ヲ以テ撰擧ヲ行ヒ又ハ之ヲ行ハシメタルモ其學クル所ノ議員ハ國民ノ思想ヲ代表スル者ニ非レハ隨テ國家ノ不利ナレハ亦解散權ヲ用ユヘキ者ナリトス或ハ謂ハシテ議院言論ノ詭激ニ涉リ不當ノ法律ヲ制スルモ豈之ヲ解散スルヲ要セン何トナレハ國君ハ裁可權ヲ有スレハ之ヲ用非テ之ヲ拒絕スルニ於テ何カ有ント曰否裁可權ヲ用非テ議院ノ決議ヲ拒絕シ之ヲ認可セサルカ如キハ唯不得已ノ際ニ非レハ用ユヘカラス豈數ハ行フヘキ所ナランヤ若シ數ハ之ヲ用非ハ遂ニ軋ノ弊ヲ生シ其極ヤ拾收ス可カラサルニ至ル是固ト國家ノ福ニ非ルナリ故ニ不認可權ヲ用ウルヨリ寧ロ解散權ヲ行フニ若カサルナリ而シテ解散ノ旨ハ議院言論ノ是非得失ヲ國民ノ輿論ニ訴フル所以ナリ若シ此權微リセハ議院ノ言論是非ヲ顛倒シ得失ヲ混淆スルモ猶依然之ヲ存セサル可カラス

豈不可ナラスヤ唯夫此權アリ是惡議員ヲ改撰セシメ以テ良議員ヲ得ヘキ所以ナリ本權ヲ君主ニ委スヘキ所以ハ他ナシ君主ノ議院ヲ解散スルハ敢テ自ラ利スルニ非ス特ニ主治權ヲ有スルモ立法行政司法ノ如ク其一方ニ偏スル者ニ非スシテ又國家ノ最高ニ位スル者ナレハ隨テ濫用ノ虞ナシ蓋シ君主ノ國家ニ利ナリト認ムル者ハ復タ他ノ牽制ヲ受ケスト雖モ他ノ所司ノ如キハ各職務ノ爲ニ偏倚スルノ虞ナシトセス故ニ委スルニ此權ヲ以テセハ故ヲニ之ヲ濫用シ以テ自ラ利スルナキヲ保セカレハナリ大統領ニハ委スルニ此權ヲ以テス可カラス故ニ共和各邦未タ之ヲ以テ大統領ニ委シタルモノアラス然ル所以ハ他ナシ大統領ハ民撰ニ由ルモノナレハ或ハ政黨ヲ先ニシ國家ヲ後ニスルナキヲ保セス且ツ其地位適ニ君主ヨリ卑下ニシテ人民ノ尊敬亦君主ト比ス可カラサレハナリ佛ノ如キ元老院ノ承諾ヲ經サレハ解散權ヲ用ウルヲ得スト爲セリ此權ヲ下院ニ行フハ前論ニ徵シ不可ナキヲ見ルモ若シ以テ上院ニ對スルモハ分別セサル可カラス若シ上院議員終身官ナレハ之ヲ用ルヲ得ス然ラサレハ之ヲ用ウルヲ得ルハ當然ナリトス何トナレハ前論ノ旨ヲ此際ニ適用スルヲ得レハナリ解散權ノ必要如是ナレハ憲法上固トヨリ規定セサル可カラサルモ以テ斷絶權ト爲ス可カラス議院ヲ斷絶スルハ國民ノ參政權ヲ剝奪スルモノナレハ君主ト雖モ此權ヲ有スヘキニ非ス故ニ各邦憲法解散ノ際ニ於ケル新員招集ノ期ヲ規定セサルナシ

白、四十日更ニ撰擧會ヲ開キ二月間招集組織ス普六十日新撰九十日間招集

兩院制ノ邦國ニ在テハ下院ヲ解散シタルハ上院ノ議會ハ之ヲ延會セサル可カラズ此權ハ未開會前之ヲ用ルヲ得ルヤ否未開會前ハ其思想ヲ知ルニ由ナケレハ豈其利害ヲ認ムルヲ得ン且ツ未開會前ト雖モ之ヲ用ウルヲ得ルトセハ是撰擧ヲシテ徒爲ニ屬セシムル者ト謂フヘキナリ

第三節

法律勅令ノ裁可及其施行ヲ命スル權

法律ハ國民ノ權義ヲ定ムル規則ニシテ勅令ハ法律ノ執行ノ爲メ若クハ法律ノ委任ニヨリ法律ノ範圍内ニ於テ命スル規則ナリ此二者ニシテ法律タリ勅令タルヲ得ル者ハ必スヤ國長ノ裁可ヲ要ス之ヲ前論ニ徵セス亦其主治權ニ屬スヘキヲ見ルヘキナリ凡ソ議決ハ必ス裁可ヲ要スルニ非ス或ハ裁可シ或ハ否セス裁可權ノ必要ハ何ソヤ夫議院ハ民撰ニ由リ構成スト雖モ亦弊害ナシト爲サス其尤ナル者ハ屢輿論ニ反シ過激輕騷ニ流レ或ハ政黨ノ利益ヲ先ニシ國家ノ利害ヲ顧サルカ如キアリ又內閣宰相ト徒ニ抵抗ヲ試ミ議案ノ得失ヲ問ハサルカ如キ是解散權ヲ要スル所以ナリ又一時ノ勢ニ乘シテ弊ヲ生スル者アリ輿論又ハ新聞記者等ハ一時浮説ヲ傳播スル往々之アリ議院其實ヲ窮メス其浮説ニ泥ミ法ヲ制スルハ不可也是之ヲ延會セサル可ラス而シテ又解散延會兩カラ之ヲ要セサル者アリ即チ偶然不當ノ議決ヲ爲ス如キ是ナリ蓋議員ハ政治經濟法律ノ思想ニ乏キ者往々之アリ然ルチ必其議決ヲ取り以テ法律ト爲サ、ル可ラサルハ豈不可ナラスヤ而シテ其議決タル敢テ解散延會スルニ及ハス是裁可權ヲ要スル所以ナリ又他本權ノ必要ヲ見ルニ足ル者アリ凡ソ特占權

アレハ隨テ之レカ監督ヲ設ケサル可ラス然ラサレハ私益ヲ先ニシ國益ヲ后ニスルハ情勢ノ免レサル所ナリ議會ノ立法ニ於ケル特占權アルモノナレハ或ハ收賄ノ爲メ主治權ニ抵抗シ以テ非理無用ノ法ヲ設ルナキヲ保セス此際裁可權上ニ在レハ之ヲ裁可セサルヲ得要スルニ議院其權ヲ濫用スルヲ防ク所以ナリ要之裁可權ノ必要ハ議院不當ノ決議ヲ採用セス及議院チシテ其職務ヲ愼マシムルニ在リ本權モ亦之ヲ君主ニ委スル所以ハ國家治レハ君主最モ其慶ヲ享ケ且君主ハ立法行政權ノ如ク其職權ニ偏スル者ニ非レハナリ

然ルニ共和國ノ大統領ハ君主ト其情態大ニ懸隔シ勢已ノ政黨ニ偏スルノ虞ナキニ非レハ爲ニ本權ヲ委スルヲ得ス若シ委スルニ本權ヲ以テセハ爲ニ不公平ノ處分ヲ爲スモ知ル可ラス故ニ佛米皆之ヲ委セス

但共和ト立君トヲ問ハス議院或ハ不當ノ議決ヲ爲スナシトセサレハ隨テ之レカ矯正ヲ要ス故ニ共和國ニハ大統領ニ委スルニ裁可權ヲ以テセサルモ再議ニ付スルノ權ヲ以テ米ハ十日內上院又ハ下院ニ下付ス然ルニ兩院三分二以上尙前議ヲ執レハ大統領復タ奈何トモスルナク以テ法律ト爲サ、ル可ラス若三分二ニ達セサレハ議案消滅ス佛ハ一月內大統領ヨリ之ヲ再議セシムル法律勅令ハ裁可ヲ經テ其効ヲ有ス然ルニ是政府內ニ然ルノミニシテ人民ハ未ダ之ヲ周知セサレハ隨テ之ヲ遵守セシムルニハ更ニ其遵守ヲ命スルノ手續ヲ爲サ、ル可ラス其遵守ヲ命スルノ權亦主權ニ屬ス故ニ又之ヲ國長ニ屬ス

第四節

文武官進退ノ權

主權ハ國權ヲ統轄スル所以ナレハ凡國權ノ用ニ任スル人ノ黜陟進退亦國長ノ本權ナリ官吏トハ公權ノ一部ヲ負擔シ自己ノ名義ヲ以テ其職ヲ尽スヲ得ヘキ者ニシテ宰相各省大臣外國公使諸省委任官法司海陸軍武官等ノ如キ是ナリ是國長ノ本權ナレハ共和國ト雖モ猶大統領ニ屬ス而シテ其專ラ進退スルヲ得ヘキ者ハ宰相大臣次官外國公使等ニシテ其他ハ制限アリ其制限ハ慣例法律或ハ勅令ニ依リ定マル

- (1) 宰相ノ輔佐官(秘書官書記官ノ如シ)ハ國長自ラ進退セス必スヤ宰相ノ上申ニ依ル
- (2) 宰相ノ手足トナラサル參事官宰相ニ直隸セサル官吏ハ亦國長自ラ進退セス其所屬長官ノ上申ニ依ル

(3) 事務官及ヒ法司ノ如キハ試驗法ニ依ラサレハ國長ト雖モ亦之ヲ進退スルヲ得ス官吏中國長自ラ任スルヲ得ルモ擅ニ免スルヲ得サル者アリ進退任免皆之ヲ專ニスルヲ得ル者アリ任免皆試驗法ニ由ル者アリ故ニ自ラ任スル者ハ亦自ラ免スルヲ得ル者ト爲ス可ラス夫元老院議官及法司ノ如キ皆終身官ナレハ試驗及第者ハ之ニ任スルヲ得ルモ故ナク之ヲ免ス可ラス事務官亦然リ

第五節 赦宥權

本權ハ裁判確定ノ后其刑ヲ免シ若クハ減等スルヲ得ル者是ナリ亦主權ニ屬ス何トナレハ主權ハ三權ノ所爲ヲ是非スルヲ得ルヲ以テナリ本權ノ必要ハ凡法ハ千百ノ際會ニ切當スルヲ得ス其某際ニ切當セサルアルモ法司之ヲ枉クルヲ得ス必ス之ニ從ハサル可ラサルヲ以テ爲ニ

往々被刑者ヲシテ不幸ニ陷ラシムルヲ致ス夫徒刑ニ最長期ト最短期ヲ定メ罰金ニ最多額ト最少額ヲ設ケ法司ヲシテ其情狀ニ從ヒ參酌適用ノ餘地ヲ存セシムルモ猶憫然ニ屬スル者ナシト爲サス此際ハ其裁判ヲ廢棄スルニ非レハ得テ匡濟スルニ由ナキ也且之ヲ自暴自棄セス自新ノ道ヲ開クヲ得セシムル者ハ實ニ此設アルニ由ル何者極刑ニ處セラレタル(無期死刑)者ハ其世ニ望ナキヲ以テ自暴自棄以テ暴戾ヲ極ムルニ至ルハ蓋其通情ナリ但特赦ノ典アルヲ以テ万一ヲ僥倖スルノ望アリ以テ其害ヲ殺クヲ得ルナリ特ニ無期刑ノ如キ此典ナクレハ修身復々青天白日ヲ見ルニ由ナシ今此典アリテ獄則ノ謹守悔悟改悛得テ望ムヘキナリ是共和ト立君トヲ問ハス概テ國長ニ委スルニ此權ヲ以テスル所以ナリ但此權ハ裁判確定后ニ非レハ行フヲ得ス其減免亦刑法加減例ニ從ハサル可ラス故ニ無期刑ヲ減シ直ニ十五年重懲役ト爲ス可ラス

或云特赦ハ無益ナリ何者此設タル法ノ不備ヨリ生スル所ナレハナリ然ルニ法ハ凡百ノ際會ニ適用シテ其宜ニ適スルカ如キハ人力ノ及ハサル所ナリ故ニ此典ハ憲法ニ明揭セサル可ラサル原則ニ屬ス

我憲法ニハ大赦權モ亦天皇ノ本權ト爲スモ學說異議ナキニ非ス蓋シ大赦ハ既往并ニ將來ニ於テ罪跡ヲ全滅セシムルモノニシテ往々國事ノ犯罪ニ對シ之ヲ行フ世論人心ノ激昂ヲ鎮靖シ以テ平和ヲ期スル所以ナリ但其効力式ハ法律ヲ廢スルヲ以テ純理ヨリ之ヲ論スレハ此令ヲ發スルノ權ハ獨立立法權ニ存セサル可ラス然ルニ以テ立法權ニ屬セシムルノ制ニ從ヘハ

動モスレハ元議ニ時日ヲ費シ平和ヲ期スル處分ヲシテ反テ平和ヲ破ルノ効ヲ生セシムルニ至ルハ諸レヲ佛國ノ現況ニ徴シテ瞭然タリ是我憲法ハ之ヲ天皇ノ本權ニ歸シタル所以ナリ

第六節 國家代表ノ權

是立法司法行政ノ關スル所ニ非ス故ニ亦主權ニシテ國長ノ本權ニ屬ス然レモ大統領ト君主トニ從テ自ラ別アリ君主ハ專ラ之ヲ握ルモ大統領ハ然ルヲ得ス

本權ヲ分拆スレハ外國公使ノ引見自國公使ノ派遣宣戰講和及條約締結ノ如キ皆是ナリ

第一款 外國公使引見自國公使派遣ノ權

本權ハ皆國家ヲ代表スル者ニシテ國家自ラ行フカ如シ故ニ之ヲ行フニハ國ノ尊嚴ヲ傷ケサル爲メ國中至尊ノ人ニ委セサル可カラス是之國長ニ委スル所以ナリ各邦ノ通習皆然リ本權ヲ委スルニハ制限ヲ加フ可ラス之ヲ制限スル國ハ幾希ナリ故ニ國長ハ公使ノ撰任ヲ專ニシ及派遣者ニ對シ訓令ヲ下スヲ得然ル所以ハ是制限ヲ要スルノ理由ナク又公使ノ良否ニヨリ國長ニ影響スルヲ以テナリ獨リ合衆國ノ憲法ハ其選除ハ大統領ニ在ルモ派遣ニハ元老院ノ許可ヲ得サル可カラスト爲セリ宰相法司亦然ラサルハナシ

第二款 宣戰講和ノ權

宣戰權ハ報復權若クハ外國船舶差押權ノ如キモノト相混ス可ラス(償金ヲ得ルニ代ヘ之ヲ差押フルヲ云フ)

宣戰ノ權ハ兵力ヲ以テ國權ヲ伸張スル所以ナリ故ニ國際間ニ行ハレ兩國臣民間ニ行ハル者

ニ非ラス

本權ヲ委スヘキ者ハ誰ソヤ古來異論アルモ今ヤ君主國ハ君主ニ委スヘキニ一定セリ輿論憲法皆之ニ從フ蓋シ此權ヲ行フニハ自國ノ形勢ヲ知り且ツ熟慮速決スル所ナカル可ラス是之ヲ國君ニ委セサル可ラサル所以ナリ君主ハ一人ナレハ以テ獨斷專決シ易ク又其形勢ヲ知ルモ迫ニ議院ヨリ優ニシテ特ニ議院ノ如ク一方ニ偏セス大益ト至尊ヲ併有スル者ナレハ其得失ノ一身ニ關スルヲ復タ他人ノ比ニ非ス而シテ議院ノ如キハ國家ノ全体ヲ觀察セスシテ立法ノ一偏ニ泥ミ且自ラ談判スル能ハス多衆ニシテ事立ロニ處決セサレハナリ特ニ之ヲ議院ニ委セハ瑣末ノ事ト雖モ亦説明セサル可ラス是故ニ既ニ機密ヲ漏洩スルノ患アリ又時機ヲ失スルノ虞アリ是之ヲ君主委セサル可ラサル所以ナリ若夫共和國ハ獨大統領ニ任スル者ナシ佛米皆議院ノ許可ヲ要ス然ル所以ハ亦其地位利害迥ニ君主ニ異ルヲ以テナリ

第三款 講和權

是亦兩國ノ間相和スルノ權ニシテ兩國臣民ノ間ニ生スル者ニ非サルナリ又休戰權トハ自ラ異ナリ此權亦之ヲ君主ニ付セサル可カラサル所以ハ知ルヘキノ議院ハ世務ニ熟練スル者少特ニ外交政略ニ涉ル者ノ如キハ絶テ無クシテ僅ニ有ル所ノモノナレハ之ヲ委セハ亦隨テ之レカ説明ノ繁ヲ取ラサル可カラス爲ニ本國ノ情態外國ニ漏レ遂ニ和ヲ講スルヲ得ル者ヲシテ和ヲ講スルヲ得カラシムルニ至ルモ亦知ル可カラス今君主ハ特位ヲ占メ外交官ヲ指揮スルヲ得ルヲ以テ之レヲ君主ニ委スルハ頗ル便宜ニ屬ス共和國ト雖モ亦宣戰ノ如ク制限ヲ

設ケス佛ノ如キ議院ノ承認ヲ要セス米ハ獨リ上院ノ諾ヲ得レハ足レリトセリ
今注意スヘキハ講和ノ事タル單ニ和約ニ止ルアリ或ハ和約ニハ割地償金ヲ要スルアリ若シ
和約ト與ニ他條約ヲ爲セハ和約ハ他條約ニ附從スルヲ以テ普通條約締結ノ規則ニ依ル

第四款 條約締結ノ權

共和ト立君トナ問ハス皆之ヲ國長ニ委セリ然ル所以ハ議院ハ多衆ナレハ自ラ外國ト結約ス
可カラステニ議院ニハ外交事務ニ達スル者少又一々討論スレハ漏洩ノ患アリテ爲ニ條約ノ
調ハカルヲ致スヲ以テナリ

條約中本國人ノ權義ヲ輕重シ又本國人ノ義務ヲ負擔スル者アリ是名ハ條約ナリト雖モ其實
法律制定ニ異ナラス故ニ國長ハ假ニ條約ヲ結フヲ得ルモ直ニ議院ノ承諾ヲ得サル可カラス
若シ國長獨斷之ヲ爲セハ立法權ハ蔑如セラレ憲法ハ破壞シタリト謂フヘシ然ラサルハ治外
法權ノ約ノ如キ國人ノ義務ヲ生スルヲ以テ法律ヲ設ルト異ナルナキヲ以テナリ

主治權ノ重要ナルハ如是他猶之ニ屬スル者アリ裁判權(君主ノ名ヲ以テス)海陸軍指揮權ノ
如キ是ナリ是姑ク省畧ニ從フ

以上諸權ノ外ハ復タ國長ニ委スヘカラス然ルニ各國憲法往々行政ノ全權ハ君主ニ在リト記
セリ是獨君主ヲ害スルノミナラス又國家ニ害アリ夫行政ノ事タル繁難ニシテ其法規モ亦繁
密ニ涉ラサルヲ得サレハ其施行ニ於ケル動モスレハ法律ニ觸レ爲ニ怨府ト爲ルハ是古今ノ
通患ナリ然ルニ行政ノ全權國長ニアリトセハ國長ハ怨府トナリ位望而ラ之ヲ失ヒ以テ亂略

ヲ招クニ至ル是豈ニ國家ノ福ナランヤ若シ豪傑ノ其間ニ生スルアレハ非望ヲ覬覦シ生民ヲ
塗炭ニ陥ルニ至ル故ニ君主ハ獨主治權ヲ委スヘキノミ何トナレハ主治權ハ漠然タルモノニ
シテ法律ニ觸ルナク又三權ノ調和ヲ謀ルモノナレハ國長ノ地位益安固ニシテ人民敢テ怨望
スルナキモ若シ委スルニ他權ヲ以テセハ其怨望ハ國長ニ歸シ其實權ハ二三有司ニ屬スルニ
至レハナリ是千八百年ノ始ヨリ行ハルバンシヤマンユンスタン氏其說ヲ唱ヘ今ヤ各國ニ通
行スルニ至レリ

國長此諸權ヲ行フハ顧問輔弼ナカル可カラス特ニ宰相ノ輔佐ヲ要ス英獨ノ如キ立憲君主國
皆其設アラサルナシ但是國長ノ本權ナレハ宰相ト雖モ其實行ヲ拒ム可カラス若シ以テ不可
ト爲カハ自ラ退クニ若クハナシ宰相ハ輔佐ト行政長官ヲ兼スル資格アレハナリ猶后章說明
スル所アラソ

第二章 國長ノ特權
第一節 無責任

凡ソ職務アルモノハ其責ニ任セサル可カラサルハ天下ノ通誼ナリ國長ハ既ニ前章ニ論スル
如ク諸職務アルヲ以テ亦隨テ其責任ナカル可カラス況ヤ國長職務ハ至大至重ナルヲ以テ凡
吏ノ職務ト同一視ス可カラサルヤ且國長ハ從令ヒ國家ノ首長ナルモ法律規則ヲ守ルノ義
務アルハ常人ト異ナル理ナシ若シ國長ニシテ恣ニ法ヲ犯スヲ得ルトセハ國家安ソ成立スルヲ
得ンヤ法規何ヲ以テ行ハルヲ得ンヤ故ニ何國ト雖トモ憲法上國長ハ法規ヲ守ルノ義務アル

ヲ規定セサルハナシ但規定ノ或ハ暗黙ナルモノアルノミ甚キハ國長位ヲ踐ニ方リ法規ヲ守ルベキヲ誓約セシムルモノアリ要國長ヲシテ常人ノ如ク法規ヲ守ラシメント欲スルヲ以テノ故ニ非スヤ

夫如是事理ノ正面ニ照セハ若シ職務上不當若クハ犯法ノ處置アレハ國長ト雖モ亦責任ヲ負ハシムヘキカ如シ然ルニ何レノ國ト雖モ憲法上其責任ヲ規定セス但共和國ハ此限ニアラサルノミ

是故ニ君主ニハ犯法ノ處置アルモ之ヲ論スルヲ得サレハ之ヲシテ務テ不當若クハ犯法ノ處置ナカラシムルヲ要スヘキノミ之ヲ以テ無責任ノ地ニ置クハ政畧上實ニ不得已ニ出ツ各國憲法皆云君主ハ神聖不可犯ト所謂神聖トハ君主ハ過失ナシト推定スル者ニシテ君主ハ過失ナシトノ意義ニアラサルナリ蓋君主ト雖モ亦人ナレハ豈必ス過失ナカラシテ過失ナキ職務ヲ撰ミテ之ヲ任スルモ猶過失ヲ免レサル必ヒリ故ニ是ニ要スルニ過失ナカルヘシト推定シタルニ外ナラサルナリ又不可犯トハ萬一法ヲ犯シ不當ノ所爲アルモ復々其罪ヲ論ス可カラス隨テ如何ナル過失アルモ廢位セラルハモノニ非ルヲ表スル所以ナリ要之兩語ノ要義ハ君主ハ過失ナシト推定スルヲ以テ萬一過失アルモ以テ其罪ヲ論ス可カラスト爲スニアリ夫如是至大至重ノ職務ニ任シ且法規ヲ遵守セサル可カラサル者ニシテ過失若クハ犯法ノ責任セスト爲スハ抑何ソヤ其理致獨一アルノミ曰若シ其責ニ任セシメハ或ハ廢立ノ舉ナキヲ希フヨリ事慎重ヲ加ヘ正理ヲ顧ミルヘシト雖モ他ニ大弊アルヲ如何セン故ニ寧ろ區々ノ正

理ニ偏センヨリハ天下ノ大害ヲ除クニ若カスト爲スニ在リ然則テ其責ニ任セシムルモ其害果シテ如何曰ク君主國ニ在テ君主ノ地位ハ安固ナルヲ要ス若シ安固ナラサレハ常ニ紛争ノ的トナリ禍亂底止スル所ナシ蓋君主ハ一國ノ長ニシテ子孫ヲシテ其地位ヲ繼シメ且ツ巨額ノ財用ヲ享レハ誰カ此地位ニ在ルヲ望マサラン故ニ其地位安固ナルヲ泰山モ管ナラサルニ非レハ人助モスレハ取テ代ラント欲シ因テ以テ亂階ヲ生スルヤ必セリ而シテ之ヲ安固ナラシムルハ當ニ如何スヘキ無責任ト爲スニ若クハナク亦無責任ト爲サル可カラサルナリ若シ負ハシムルニ責任ヲ以テセハ既ニ君主タルノ地位ヲ傷ヒ隨テ重過失アレハ廢立ヲ決セサル可カラサルニ至ル特ニ無責任ト爲サルハ觀視ノ徒ハ無失ヲ誣テ過失ト聲言シ以テ惡謀ヲ逞スルナキヲ保セス是之ヲシテ無責任ト爲スヲ要スル所以ニシテ政畧上實ニ己ムヲ得サルニ出ツ且夫無責任ト爲サルハ當初君主ヲ立ルノ意思ニ反スルヲ見ル今君主ヲ立ルハ其子孫ヲシテ永續セシメントスルニ在ルニ非スヤ然ルニ過失アル毎ニ輒テ廢立ヲ決セハ爲メニ其血統ヲ斷テ后遂ニ更代スヘキ者ナキニ至ル由是觀之政畧ヨリ論スルモ立君ノ意思ヨリ論スルモ無責任ト爲スヲ以テ當然トス

其無責任ハ獨職務ニ存スルノミナラス凡百ノ行爲ヲ併テ皆無責任ト爲スハ君主國ノ通法ナリ然ル所以ハ要スルニ其犯法ヲ罰スルモ或ハ爲ニ廢立ヲ決セサル可カラサル者アラシク然ラハ其弊ヤ前論ト異ナルヲケレハナリ

若夫民事ニハ宮内卿則テ帝室管財者ヲシテ代テ其責ニ任セシム然ル所以ハ民事ノ責ニ任セ

シムルモ爲ニ君主ノ地位ヲ輕重スルニ足ラス唯其財産ノ幾分ヲ減スルニ過キサレハナリ
然ルニ君主ヲシテ無責任ト爲スハ實ニ不得已ニ出ル者ニシテ君主ハ何事ヲ爲スモ可ナリト
爲スニ非ルナリ故ニ背法ニ陷ラシメサルノ方法ヲ設ケサル可カラズ其方法ハ唯一アルノミ
君主當ニ行ヘキ所ノ者ニハ宰相ノ署名ヲ以テスル是ナリ然ラサレハ君主ノ行フ所或ハ不當
ナルモ知ル可カラズノ獨リ以テ君主タルノ地位ヲ傷フノミナラス併セテ民害ヲ致スヲ以テ
ナリ

然ルニ君主ノ所爲ハ事大小トナリ悉ク宰相ノ署名ヲ要ストセハ君主ハ殆ント宰相ノ下流ニ
立ツノ嫌ナキニ非スト雖モ然ラス君主ハ其署名アルニ非レハ之ヲ行フヲ得スト雖モ君主ハ
其本權ヲ行フニ當リ強テ其署名ヲ命スルヲ得若シ宰相ニシテ肯セサレハ自ラ辭避セサル可
ラス故ニ其下流ヲ立ツノ嫌ナキナリ

若夫大統領ハ無責任ニ非ス亦以テ無責任ト爲スヲ得サル者アリ蓋大統領ハ民撰ニ因リ任期
ヲ定メ就任スルモノナレハ任滿レハ常人ニ異ナラス夫ノ君主ノ如ク子孫ヲシテ其地位ヲ繼
シムルノ特權ヲ有セサレハ隨テ亦君主ノ如ク爭擾ノ的トナラス又君主ノ如キハ他復タ更代
スヘキ資格ヲ有スル者ナキモ大統領ハ然ラス苟モ德望アル者ハ以テ之ニ代ルヲ得故ニ君主
ノ如ク其位置ヲ安固ナラシムルヲ要セス是大統領ニハ往々多少ノ責任ヲ負ハシメ全然無責
任トナス者アラサル所以ナリ
米ノ如キ大統領職務ノ過擧アルヤ國會之ヲ元老院ニ訴ヘ院之ヲ裁判ス而シ其裁判ハ單ニ職

務ニ對シ過失アルヤ否ヲ定ムル者ニシテ罰ヲ科スヘキヤ否ヲ判スルニ非ルナリ從令ヒ過失ア
リトスルモ其位ヲ退クニ止ルモノトス或ハ過失ト與ニ犯法ノ所爲アルカ如キハ退位ノ後通
法ニ據リ陪審裁判ヲ以テ之ヲ判ス故ニ元老院ノ裁判ハ政治上ノ裁判ニシテ刑事ニ屬セス佛ノ
如キ大反逆罪ヲ除クノ外ハ其責ニ任セスト爲セリ大反逆罪トハ國會ノ自由ヲ妨ケ安寧ヲ害
スル者是ナリ自餘刑法上ノ責罰ハ一切之ニ任セス其大反逆罪ヲ治ムル方法ハ國會之ヲ訴ヘ
元老院之ヲ判ス故ニ之ヲ訴ルハ獨國會アリ之ヲ判スルハ獨元老院アルノミ

第二節

榮典授與權

榮典トハ爵位勳章位記貴號賞號等ニシテ皆國家ニ功勞アリ若クハ學術技藝ヲ以テ世ヲ濟シ
タル者ヲ表章スル所以ナリ或ハ王室ノ光榮ヲ輝カサン爲メニ設ル國アリト雖モ是實ニ變例
ナリ此權亦君主ニ委スルニ若クハナシ何トナレハ君主ハ獨最上權ヲ有シ且ツ無偏無黨ニシ
テ國家ノ大体ヲ達觀スルノミナラス之ヲ授クル者君主ニ非レハ實ニ榮ノ榮タル所以ヲ失ス
レハナリ故ニ何國ト雖モ之ヲ君主ニ委セサルハナシ

共和國ニ在テハ共和制度ヲ立テシ旨ヨリ復タ此榮典ノ設ヲ要セス何トナレハ此典アレハ隨
テ之ヲ得ル者自ラ平人ノ上流ニ位スルニ至ル而シテ共和制度ノ要旨ハ實ニ孟氏ノ言ノ如ク
榮譽ヲ重スルヨリ寧ロ德義ヲ重スルニ在レハ此典ヲ與ルモ以テ其品位ヲ貴フスルニ足ラス
又之ヲ與ルノ必要ナケレハナリ故ニ米ニ此設ナシ佛ノ如キ勳章ノ設ナキモ位階アリ勅翁嘗
テ之ヲ設ケ今尙傳存セリ蓋佛ハ共和ナレモ猶君主國ノ餘習ヲ脫セサルナリ

第三節 帝室費ヲ得ルノ特權

君主ハ國家ヲ統治スル重大ノ地位ヲ占レハ國家ハ君主、君主ハ國家ナリト云フモ不可ナキ如シ隨テ君主ハ他ニ代立者ナケレハ務テ其地位ヲ安然ナラシメサル可カラス其地位ヲ安然ニシ其尊榮ヲ保タシメンニハ王室費ヲ優裕ナラシメサル可カラス之ヲ定ムルニハ三法アリ

- (1) 年次國會ノ議決ヲ取ル
- (2) 法律ヲ以テ豫定ス
- (3) 即位毎ニ其額ヲ定ム

第一法ハ君主ノ尊嚴ヲ傷フヲ以テ之ヲ行フ者僅ニ一國ノミ何トナレハ國會ノ議ヲ經ル毎ニ其議動モスレハ君主ノ德否ニ涉ルナキヲ保セサレハ也第二法ハ稍行ハル普ノ如キ是ナリ第三法ハ頗ル行ハル英、白、和ノ如キ皆是ナリ

共和大統領ハ前章屢ハ論スル如ク君主ノ如ク其地位ヲ安然ナラシムルヲ要セサレハ隨テ又君主ノ如ク巨額ノ財用ヲ供スルヲ要セス若シ巨額ヲ支給セハ在職中過重ノ權ヲ有シ殆ント君主ノ如ク然ルヲ致シ以テ立制ノ旨ニ背キ國基ヲ動スノ患アリ故ニ米ノ如キハ終古華氏ノ制定ニ沿ル(二万五千弗)但其額ノ過少ナルヲ以テ又弊ヲ生ス収賄ノ虞ノ如キ是ナリ故ニ今ヤ其輿論ハ増額ニ在リト云佛ハ以テ拾貳万圓トス是實ニ必須ノ額ナリ米佛皆大國ナリト雖モ猶此小額ヲ供スルニ過キス白ノ如キハ小國ナルモ反テ六拾万ノ皇室費ヲ定メタリ自餘猶君主ノ特權ニ属スル者アルモ多クハ儀式ニ關スレハ此ニ復タ論セス

◎凡ソ法律ニ係ル御質問ニテ此書籍愛讀セラレタル方ハ特別入念可致候也

明治廿三年六月廿八日印刷
全 年同月廿九日出版

京都市上京區下立賣西洞院西入
西大路町十八番戶
同市同區兩替町三條上ル
柿本町六番戶寓
著者兼發行者 尾本源吉郎

大阪西區土佐堀四丁目
十二番屋敷三有社
印刷者 正永良熙

2

